

# CAT FIP Treatment

HIRO ANIMAL HOSPITAL



～抗ウイルス薬による治療経過～

## FIP治療への当院の取組 CASE1

8カ月のマンチカン（去勢済みの男の子）が発熱、血尿を主訴にご来院。  
血液検査で炎症の有無を示す SAA が高い値を示し（>150） グロブリンと  
総蛋白質の上昇、腹腔内リンパ節の腫れを認めた **1**

症状や画像所見、年齢からFIP(猫伝染性腹膜炎)を疑い、針刺し生検によるPCR検査を実施。  
結果は陽性で、コロナウイルスの治療薬であるモルヌピラビルの投薬を開始。

投薬開始から4日後の再診で発熱は落ち着き、元気食欲もかなり改善。

投薬開始から14日後の検査で、リンパ節の縮小を確認。治療反応性良好で、副作用も問題なく投薬を継続。 **2**

投薬開始から22日後の画像検査では腫瘍性病変は消失。 **3**

投薬開始から59日目の血液検査では総蛋白質は基準値範囲内に戻り（来院時：  
9.8→8.4）、グロブリンの値も低下（来院時：7.4→5.6）

	初診時	投薬8日目	投薬14日目	投薬36日目	投薬59日目
TP	9.8	9.7	10.0	9.1	8.4
GROB	7.4	7.0	7.2	6.4	5.6
ALT	99	141	90	88	117
P	7.0		8.0	7.9	6.8

その後病変の再発はなく、84日間の投薬を終え、治療終了（2024.6月）

投薬終了後2ヶ月後の再診でも病変の再発なし。経過良好。

今回モルヌピラビル(抗ウイルス薬)を用いた治療は早い段階で奏功し、  
一時的な肝数値の軽度上昇、Pの軽度上昇以外は目立った副作用も認められませんでした

**FIP治療は、早期の確定診断と 的確な投与スケジュールが重要になります**

**食欲不振・発熱 元気消失等がみられた場合は 検査等 早めにご相談ください**

